

防府市

景観百選



未来
に
つ
な
ぐ



防府市景観百選とは？

魅力ある防府市のまちづくりに貢献すること及び市民の皆様の景観意識の高揚を図り、防府市の魅力あふれる景観資源の価値を次世代に伝えていくことを目的として、「防府市景観百選」を選定しました。

過去の取り組みについて（選定等）

令和元年から5回に分けて写真の募集を行いました。

応募された写真やコメントをもとに「防府市景観百選選考委員会」で審議を行い、景観百選の候補地および代表写真を選定しました。

その後、候補地について、令和8年4月に開催された「第45回防府市緑花祭」の会場内で2日間投票を行い、その結果を踏まえ、同選考委員会の審議を経て、令和8年6月に「防府市景観百選」を決定しました。

1. 各地域の候補地を決定



撮影

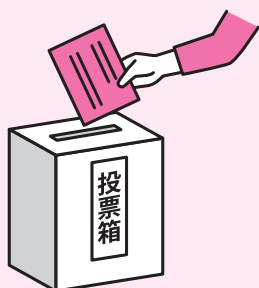


応募

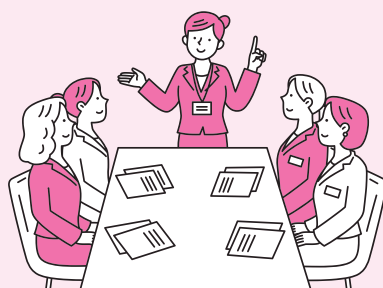


選考委員会での審議

2. 候補地について「投票」を実施



3. 防府市景観百選 選考委員会での 最終審議



4. 防府市景観百選 決定



番号	候補地	番号	候補地	番号	候補地
1	末田停留所	41	旧長宗金物店	81	佐波川（西浦地区）
2	田中窯業 真山窯	42	本橋	82	新大橋
3	堀越のづら積み	43	防府駅みなとぐち周辺	83	矢筈ヶ岳
4	江泊山	44	車塚妙見神社	84	佐波川（右田地区）
5	岩畠古墳	45	三田尻御舟倉跡	85	月の桂の庭
6	敷山城跡	46	菅原道真公御上陸之地	86	右田ヶ岳
7	秋山家住宅	47	みなとオアシス三田尻	87	天徳寺
8	大平山	48	桑山	88	石船山
9	春日神社	49	大楽寺前の通り	89	新橋（右田地区）
10	東大寺別院阿弥陀寺	50	老松神社	90	剣川
11	周防国衙跡	51	英雲荘	91	玉祖神社（玉祖地区）
12	毛利氏庭園	52	三田尻第二公園	92	二六台
13	多々良大仏殿	53	一馬本店	93	山陽自動車道佐波川SA下り線庭園
14	佐波神社	54	三田尻石造燈台	94	ボンボン山
15	周防国分寺	55	鞠生の松原と神社	95	自由ヶ丘
16	松崎町前小路裏通り	56	レインボーあかね（新田地区）	96	椿峠からの眺望
17	防府天満宮	57	三田尻港	97	国津姫神社
18	天神山	58	防府読売マラソン	98	富海漁港
19	らんかん橋	59	大笑い観音	99	旧山陽道
20	天神商店街	60	レインボーあかね（野島地区）	100	船蔵通り
21	松崎小学校（旧正門）	61	自然と港	101	富海駅
22	銀座商店街	62	矢立神社	102	富海海水浴場
23	防府市公会堂	63	錦橋	103	手懸岩からの眺望
24	てんじんぐち多目的広場	64	蓬萊桜	104	琴音の滝
25	防府駅てんじんぐち周辺	65	向島運動公園	105	小野の田園風景
26	アスピラート	66	向島漁港	106	久兼ふるさと牧場
27	ルルサス防府	67	三田尻塩田記念産業公園	107	佐波川（小野地区）
28	石田屋	68	入川周辺	108	宇佐八幡宮
29	旧テラー伊藤	69	枅築らんかん橋	109	真尾小学開学の地 石碑
30	宮市のまち並み	70	塩竈厳島神社	110	玉祖神社（大道地区）
31	佐波川（松崎地区）	71	華城公園	111	山陽本線
32	迫戸川	72	光宗寺	112	長沢池
33	円筒分水工／佐波川総合堰	73	大崎橋	113	大海湾
34	戎ヶ森公園	74	植松八幡宮	114	小俣八幡宮
35	遊児川	75	佐波川（華城地区）	115	笑い講
36	鉄道記念広場／新橋赤間緑道	76	小茅海岸		
37	デザインプラザHOFU	77	エヒメアヤメ		
38	佐波川（佐波地区）	78	旧西浦農協会館		
39	新橋（佐波地区）	79	NHKラジオ中継アンテナ		
40	護国寺	80	西浦開作地区のレンガ倉庫		

1

末田停留所

すえだていりゅうじょ



壺祭り等を通じて「焼物の里」としての認知度が向上したことから、その来場者や支援者に感謝の印として、平成9年に壺祭り実行委員会によって寄贈されました。今では、耐火レンガづくりの茶色いバス停が地域のシンボルマークとなっています。

2

田中窯業 真山窯

たなかようぎょう しんざんよう



主に陶器製の蛸壺を製作し、使用される「登り窯」は稼働するものとしては国内最大級で、市の有形民俗文化財に指定されている歴史・文化的な価値が高いものです。現在は、登り窯の余熱を利用したドライフラワーの製作も行っています。

3

堀越 のづら積み

ほりこしのづらづみ



窯業が盛んであった堀越地区では現在もいくつもの窯元や窯跡が残っており、江泊・堀越・末田とつづく海岸通りに丸い石を積み上げた「のづら積み」の石垣は、古き時代を偲ばせる風情ある「通りの景観」を醸し出しています。

4

江泊山

えどまりやま

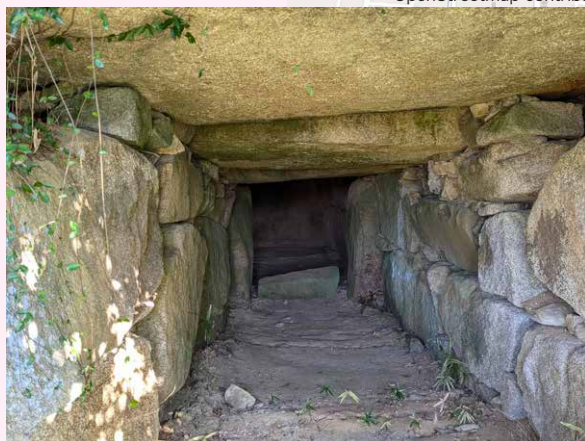


標高約260mで、防府市の南端に位置し、瀬戸内海や江泊の市街地を一望できるポイントです。戦艦大和の最後の泊地となった野島沖、人間魚雷回天の訓練基地となった大津島を一望できる東麓に多くの英霊を祀る留魂碑が建立されています。

5

岩畠古墳

いわばたけこふん



住宅街の中に立地する直径約20mの円墳で、横穴式石室の全長は10.1mと山口県内でも有数の大きさです。2011年には市指定史跡に登録されました。石室の規模から、防府の古墳文化を探るうえで重要な位置を占めるものです。

6

敷山城跡

しきやまじょうあと



矢筈ヶ岳の南西8合目付近に位置する敷山城跡は1336年、後醍醐天皇に味方して周防国府の役人達が挙兵し、足利尊氏側の軍勢たちと戦った地です。城郭らしい遺構はなく歴史の跡を偲ぶ史跡です。毎年8月2日には、慰霊祭が行われます。

7

秋山家住宅

あきやまけじゅうたく



大平山の麓に建築された「いにしえ」を留める重厚な建物、棟門、石垣と土壁は、江戸時代末期に武家住宅として建築され、今もほとんど改造されことなく残っている景観上重要な建物です。

8

大平山

おおひらやま



防府市の最高峰、標高約631mから防府市の街や瀬戸内海の島々、大分県の国東半島までも望むことができます。西日本有数のツツジの名所で、山頂公園の4つの広場には様々な遊具が設置されており、多くの家族連れが訪れます。

9

春日神社

かすがじんじゃ



1186年、周防国司として防府に下向した藤原氏がその祖神である奈良の春日大社からご分霊をお祀りしたと伝えられる神社です。大寒の日に冷水につかり心身を清め、無病息災を祈る行事「大寒みそぎ」は多くの参加者が集まります。

10

東大寺別院 阿弥陀寺

とうだいじべついんあみだじ



1187年に後白河法皇の現世安穩を祈願するとともに、東大寺再建や宗教活動の拠点である7別所のひとつとして、重源上人によって建立されました。境内には、約80種類4,000株のあじさいが植えられ、西のあじさい寺としても有名です。

11

周防国衙跡

すおうこくがあと

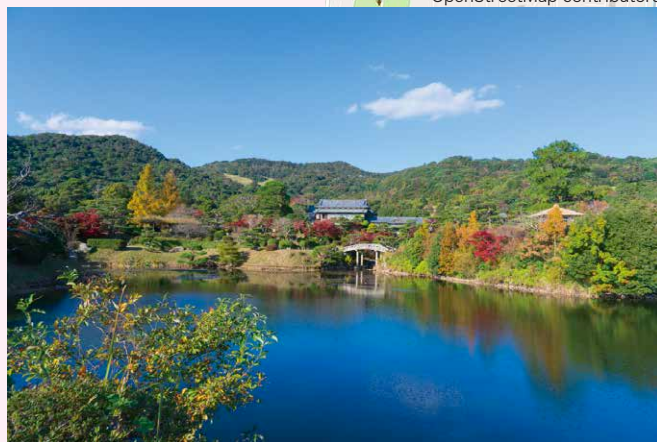


全国の国府跡の中で最も早く1937年に「周防国衙跡」として国の史跡に指定され、現在も広大な史跡公園としてその姿を留めています。重要な歴史を伝える場であると同時に地域の祭事等の営みを支える文化的価値を今に残しています。

12

毛利氏庭園

もうりしていえん



旧萩藩主毛利氏の本邸に築かれた約25,000坪の広大な敷地を有する池泉回遊式（ちせんかいゆうしき）庭園で、1996年に国指定名勝となりました。つつじやもみじ、桜など四季折々の花木が彩りを添え、訪れる人々を楽しませてくれます。

13

多々良大仏殿

たたらだいぶつでん



住宅街に佇む高さ約3mの大仏は、もともと国府の北側に鎮座していた辻福寺に置かれていましたが、1892年の毛利氏庭園の建設が始まった時期に多々良に移されました。作者は周防国の国司であった俊乗坊重源上人であると伝えられています。



14

佐波神社

さばじんじや



元は金切神社と呼ばれていましたが、明治後半に他の三社を合併し、佐波神社と改称されました。石鳥居の前には、「野崎小唄」や「麦と兵隊」などを作曲した地元作曲家、大村能章の顕彰碑と歌碑があり、地域の歴史的な建築物のひとつです。



15

周防国分寺

すおうこくぶんじ



聖武天皇の勅願によって建てられた国分寺のひとつで、創建当時の寺域をほぼ維持する珍しい例として知られ、およそ1200年の歴史と数多くの文化財を有する歴史的価値の高い寺院です。夏にはサルスベリの花が、色とりどりに咲き誇ります。



16

松崎町 前小路裏通り

まつざきちょう まえこうじうらどおり



周防国分寺の西側に位置する旧山陽道からの脇道です。石の門柱や石積み水路のまち並みからは、日本最初の天神さまである防府天満宮の門前町として栄えたこの地域の歴史を感じることができます。



17

防府天満宮

ほうふてんまんぐう



904年に創建された菅原道真公を祀る神社で、日本で最初に創建された天神さまと称されています。道真公が学者であったことから、学問の神様として崇敬をされています。2月には境内地に道真公が愛した梅の花約1100本が咲き誇ります。

18

天神山

てんじんやま



防府天満宮の背後にそびえる天神山の南斜面は公園として整備され、春には、梅、桜、ツツジなどが順に咲き誇ります。多くの花見客で賑わうだけでなく、地域の人々や隣接する防府天満宮の参拝者の目を和ませる憩いの場となっています。

19

らんかん橋

らんかんばし



防府天満宮へと続く通りが迫戸川と交わる地点に架かり、川面には錦鯉が泳ぎ、朱色の欄干が目を引きま。橋の傍に立つ由緒書きには、かつては長さ12尺（約3.6m）、幅8尺（約2.4m）の石橋があったことが語られています。

20

天神商店街

てんじんしょうてんがい



山口県最古の石鳥居である一の鳥居が出迎える防府天満宮参道からつづく商店街。南へ続く銀座商店街とともに市民や観光客を楽しませ、御神幸祭をはじめとするイベントなどの際には多くの人で賑わいます。

21

松崎小学校 (旧正門)

まつざきしょうがっこう (きゅうせいもん)



芦樵寺(ろしょうじ)を教場として明治6年に「宮市小学」が創立されました。その後、天神町に移り、明治9年に「松崎小学」となり、令和5年11月に創立150周年を迎え、旧正門は松崎小学校の長い歴史を物語るシンボルとなっています。

22

銀座商店街

ぎんざしょうてんがい



防府天満宮参道からつづく、幸せます通りの愛称で親しまれている商店街。北へ続く天神商店街とともに市民や観光客を楽しませ、御神幸祭をはじめとするイベントなどの際には多くの人で賑わいます。

23

防府市公会堂

ほうふしこうかいどう



昭和35年建設のモダニズム建築の特徴が色濃くのこる建築物です。令和2年には大規模な改修工事を実施し、モダニズム建築の特徴を生かしたまま、当初のデザインをほぼそのまま残すものとして、同年のグッドデザイン賞を受賞しています。

24

てんじんぐち 多目的広場

てんじんぐちたもくつきひろば



中心市街地の憩いの場やイベントなどの多様な都市活動、さらには災害時の一時避難場所としての機能も備えた広場です。日頃から多くの利用者が訪れますが、暖かい季節になると、中央にある噴水で子どもたちが水遊びをする姿が見られます。

25

防府駅 てんじんぐち周辺

ほうふえきてんじんぐちしゅうへん

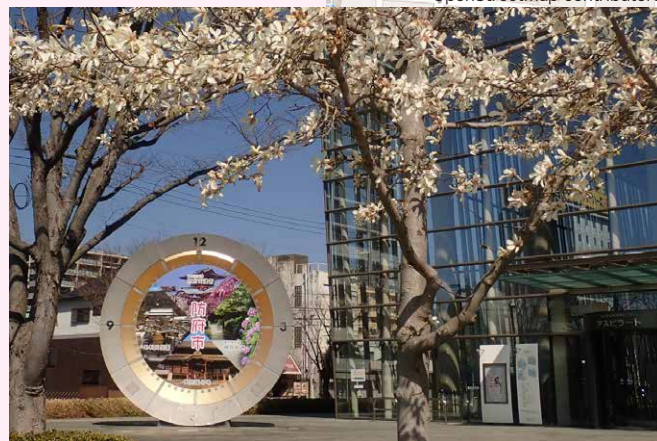


「てんじんぐち」の通称で親しまれる北口。平成6年に完成した現在の高架駅舎を中心に周辺の土地利用が大きく進み、市の玄関口にふさわしい空間が広がっています。通りには種田山頭火の像が立ち、訪れる人を静かに迎えてくれます。

26

アスピラート

あすびらーと



地域交流センターとして建設され、平成10年にオープンし、1階には市民スペース、3階には本格的な音響効果を持つ音楽ホールを備え、市民文化活動や交流の場として親しまれています。現代の防府駅周辺の景観を構成する建物のひとつです。

27

ルルス防府

るるさすほうふ



平成18年にオープンしたこの複合施設は、マンションや商業店舗、防府市立図書館などの公共施設などから構成され、名称はラテン語で「ふたたび」「さらに」を意味し、防府駅前の再生と新たな賑わいの創出への思いが込められています。

28

石田屋

いしだや



日本でも今では貴重な木造3階建て建築物で、明治27年、日清戦争が始まった年に中関の料理屋から移築され、太平洋戦争時には陸軍によって多く利用されました。開発が進む市街地中心部でその歴史を今に伝えています。

29

旧テラー伊藤

きゅうてーらいとう



旧山陽道と萩往還が重なる沿道に位置し、かつては背広などを取り扱う洋服店として使用されていた建築物です。昭和初期に建築され、防府天満宮の宮前町として、宮市地区の歴史的な趣を今にとどめる貴重な建物です。

30

宮市のまち並み

みやいちのまちなみ



旧山陽道と萩往還が重なるこの道は、歴史的なまち並みを残す修景舗装等で美しい景観を守っています。また、山頭火の生家から松崎小学校まで約1 kmの「山頭火の小径（こみち）」は、郷土文化を今に伝える道として景観の価値を高めています。

31

佐波川 (松崎地区)

さばがわ（まつぎちく）



県内を流れる代表的な一級河川で本市の一大景観を成し、市民生活に潤いと安らぎを与えています。佐波川の親水エリアとして公園が整備され、週末には子ども連れで賑わいます。4月頃には佐波川左岸に連なる芝桜が咲き賑わいに彩りを添えます。

32

迫戸川

せぼとがわ

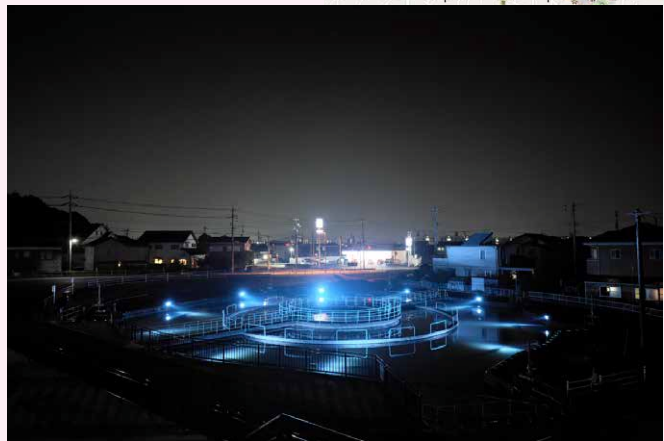


佐波川を水源とし、防府天満宮周辺を流れる迫戸川は、農業用水路としての役割だけでなく、昭和の時代までは生活水としても使用されていました。水路と住宅が一体となった街並みは、この地域ならではの生活空間を作り出しています。

33

円筒分水工／
佐波川総合堰

えんとうぶんすいこう / さばかわそうごうせき



佐波川の総合堰から取水した用水を平野部の農地に供給するため、昭和33年に築造された全国最大規模の円筒分水工です。決められた用水量を水路に分水する構造で、当時の水問題を解消する先人の知恵が、今も地域の生活に生かされています。

34

戎ヶ森公園

えびすがもりこうえん



公園内には恵比須神社が鎮座し、自由律俳句で知られる種田山頭火の句碑も建立されています。敷地内には桜などが植えられており、街中でありながら豊かな木々に囲まれた安らぎの空間を形成しています。

35

遊児川

ゆうにがわ



「山頭火の小径（こみち）」の一角を流れ、古くから地域に親しまれてきた小川です。かつてはたくさん子どもたちの遊び場であった名残から、遊児川の名が生まれ、夏には流れる水の清涼感が佐波地区を駆け巡ります。

36

鉄道記念広場／
新橋赤間緑道

てつどうきねんひろば / しんばしあかりよくどう



交通の要衝としての防府の経済圏を広げる役目を果たしていた防石鉄道の軌道跡は、今も地域の遊歩道として活かされています。鉄道記念広場の防石鉄道蒸気機関車や緑道に設けられたモニュメントもその歴史を後世に伝えています。

37

デザインプラザ HOFU

でざいんぷらざほうふ



中心市街地に位置し、産業の振興や地域経済の発展に役立てるため設置された創業支援拠点施設です。令和4年からは創業・交流センターとして、コワーキングスペースやレンタルオフィスなどの提供も行っています。

38

佐波川 (佐波地区)

さばがわ (さばちく)



県内を流れる代表的な一級河川で本市の一大景観を成しています。佐波川の清流を守り、後世に引き継ぐため、平成13年より佐波川清流保全条例が制定されています。毎年5月頃に鮎が放流されており、夏には多くの釣り客で賑わいを見せます。

39

新橋 (佐波地区)

しんばし (さばちく)



防府市と山口市を結ぶ交通の要衝である「新橋」は、佐波川に架かる長さ156mのアーチ橋です。昭和53年中に4車線化され、地域の発展を支えています。朝夕は多くの自動車で混み合いますが、その車窓から広がる佐波川の景色は絶景です。

40

護国寺

ごこくじ



自由律俳句で知られる種田山頭火の墓所があるお寺です。山門前では山頭火像に迎えられ、本堂裏の資料室には山頭火に関する貴重な資料が展示されています。毎年6月頃には境内西側にある菖蒲園の花菖蒲が見頃を迎えます。

41

旧長宗金物店

きゅうながむねかなものてん



旧宿場町として栄えた地域の暮らしを支えてきた歴史を感じる建物の外観からは、かつての賑わいが偲べれます。現在はその風情を残したまま飲食店として再生され、建物には今も懐かしい「長宗金物店」の看板が残されています。



42

本橋

もとばし



佐波川の兩岸を結び、市街地と右田地域のアクセスを高めている橋です。度々大洪水に見舞われた佐波川の歴史において、橋を架けることは困難でしたが、昭和初期、現在の位置に橋が架かり、現在は新橋とともに防府の発展を支えています。



43

防府駅 みなとぐち周辺

ほうふえきみなとぐちしゅうへん



「みなとぐち」の通称で親しまれる南口には、広々としたロータリーや広場が整備され、様々なイベントが開催されるほか、四季折々の美しい並木道が人々を出迎えます。南北に抜ける通りにあるモザイクアートも、通行人を楽しませています。



44

車塚妙見神社

くるまづかみょうけんじんじや



子供の神様、商売繁盛の神様を祀るこの神社では、秋に大祭が開催され、子供の健やかな成長を祈り行われる「赤ちゃん泣きスモウ大会」など様々な催しで賑わいます。境内には6世紀後半の前方後円墳も現存し、歴史の深さを感じさせます。



45

三田尻御舟倉跡

みたじりおふなぐらあと



萩藩の水軍の本拠地で、藩主の御座船や軍船が常置されていたほか、船の建造や修理をする設備も整えられていました。周辺には、水軍の将官や船頭、船大工などの関係者が集住したため、現在でも警固町や鑄物師町などの地名が残されています。



46

菅原道真公 御上陸之地

すがわらのみちざねこうごじょうりくのち



901年、菅原道真公は大宰府に左遷される際、本州最後の寄港地として当時の海岸線であった勝間の浦に上陸したと伝えられています。この防府への滞在が縁起となり、904年に日本最初の天神さまである防府天満宮が創建されました。



47

みなとオアシス 三田尻

みなとあしすみたじり



道の駅「潮彩市場」周辺は「みなとオアシス三田尻」と認定されており、家族で遊べる防災広場「メバル公園」も整備されています。新築地緑地、別名「海が見える花の園」では、冬は梅、春は桜が咲き誇り、海と花のコントラストを楽しめます。



48

桑山

くわのやま



市の中心部に位置し、日々のウォーキングコースや春には約700本の桜が咲き誇るお花見スポットとして親しまれています。複合遊具が設置された広場やスケートボードができる広場もあり、幅広い年代の方々が楽しめる場所となっています。



49

大楽寺前の通り

だいらくじまえのとおり



本堂奥の位牌堂には、勤皇歌人として有名な野村望東尼（のむらぼうとうに）の位牌が祀られ、墓地には幕末・明治にかけ活躍した楫取素彦男爵のお墓があります。春のしだれ桜や秋の紅葉など、四季折々の風景が訪れる人の心を癒してくれます。



50

老松神社

おいまつじんじゃ



652年の創建で、872年に老松神社と改称されました。境内のクスノキは、創建当時からのものと伝えられています。春には花ショウブが咲き誇り、毎年7月頃には地名、三田尻の尻にちなみ女尻相撲大会が1996年から開催されています。



51

英雲荘

えいうんそう



萩往還の終始点として設置された萩藩の公館で、歴史上重要な役割を果たした国指定史跡です。平成23年に終了した保存修理工事では、建物の各部分が建設された時代にあわせて復元され、全体としては明治から大正期の姿に整備されています。



52

三田尻第二公園

みたじりだいにこうえん



毎年春を迎えると「桜のトンネル」が美しい景観を形成し、地元の人々に愛されるゆっくりお花見を楽しみたい方には最適な隠れた桜の名所です。季節によって景色の彩りが変化し、訪れる方々を1年中楽しませてくれます。



53

一馬本店

いちうまほんてん



江戸末期に建てられたという毛利藩の貯蓄米倉庫を一部に使用する明治32年創業の味噌・醤油の醸造場です。天井が高く、太い梁が支える歴史的な意匠は、職人の技とともに120年以上大切に守られ、今も現役の醸造場として稼働しています。



54

三田尻 石造燈台

みたじりいしづくりとうだい



1863年、毛利水軍の拠地・三田尻御舟倉そばにあった住吉神社の境内に建立された高さ7.27mの灯籠型の燈台で、萩と三田尻をむすぶ「萩往還」の海の玄関として往来する船の海上交通の安全に寄与してきた交通遺跡です。



55

鞠生の 松原と神社

まりふのまつばらとじんじや



鞠生町に残る中世までの海岸線跡で、室町時代には三代將軍足利義満が九州下向の途中に立ち寄った歴史ある地です。周辺には、幕末に薩長連合軍が集結し、必勝祈願をしたとされる小鳥神社や松原厳島神社があり、今も荘厳な空気が漂っています。



56

レインボー あかね (新田地区)

れいんぼーあかね (しんでんちく)



防府市三田尻港と瀬戸内海に浮かぶ自然豊かな離島「野島」を約30分で結ぶ1日4往復の定期船です。島民の暮らしを支える大切な生活の足であり、訪れる人を日常から連れ出す旅の玄関口でもあります。



57

三田尻港

みたじりこう



毛利氏の水軍が防府を拠点とするにあたり軍港・商港として整備したことで生まれた三田尻港。江戸時代には防府市の製塩業を支える重要な施設となりました。以後もマツダの自動車をはじめとする様々な製品の輸出港として活躍を続けています。

58

防府読売マラソン

ほうふよみうりまらそん



1970年に第1回大会が開催され、当初から「若手の登竜門」としての役割を担い、歴史を重ねてきた本大会は、今では市内のみならず全国から注目される大会となり、12月の防府市を彩る冬の風物詩となっています。

59

大笑い観音

おおわらいかんのん



津久美浜海水浴場へ向かう途中にあり、「いつまでも笑いを忘れず楽しく暮らしたい」という願いを込めて平成8年8月8日（笑い声にちなんでハ・ハ・ハの日）に建立された高さ3メートルの観音像です。野島の豊漁祈願の場所とされています。

60

レインボーあかね (野島地区)

れいんぼーあかね（のしまちく）



防府市三田尻港と瀬戸内海に浮かぶ自然豊かな離島「野島」を約30分で結ぶ1日4往復の定期船です。かつて野島はツツジが咲き誇り、「茜島」と呼ばれていました。その古来の名称にあやかって命名されています。

61

自然と港

しぜんとみなと



防府市の沖合に浮かぶ野島は、ほぼ全域が瀬戸内海国立公園に指定されています。かつて島全体にツツジが咲き誇っていた自然豊かな島で、海鳥も多く飛来します。港周辺には現在でも、情緒豊かなまちなみが大切に受け継がれています。



62

矢立神社

やたてじんじや



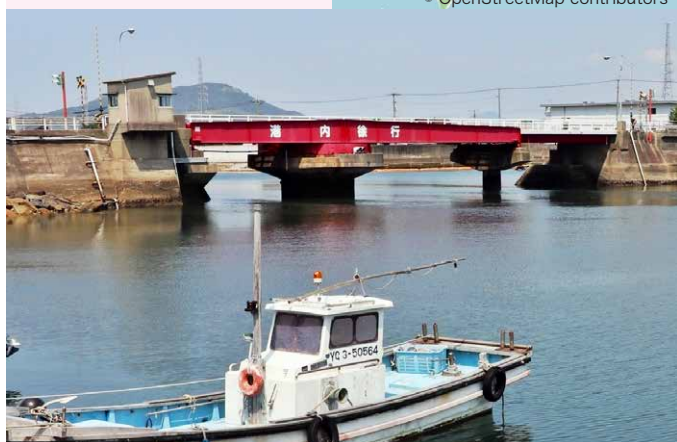
江戸時代の建立時に、土中から矢の根が多く見つかったことから、その名がついたと伝えられています。4年に1度の「御年祭」では周南市和田地区に伝わる国の重要無形文化財「三作神楽（みつくりかぐら）」を迎え、奉納が行われます。



63

錦橋

にしきばし



1950年に架橋された本土と向島を結ぶ唯一の橋で、大型船が航行する際にはその妨げとならないように橋の上部が回転する可動橋です。1969年に改修された現在の橋は、長さ46.7mで、人々の向島への往来を支えています。



64

蓬萊桜

ほうらいざくら



向島小学校に生育する樹高約8mの寒桜で、2011年に県の天然記念物に指定されています。毎年、小学校の卒業式の時期に満開を迎える早咲きの桜で、開花時期には「蓬萊桜まつり」が催され、多くの花見客で賑わいます。



65

向島運動公園

むこうしまうंदこうえん



公園内には、運動施設として野球・サッカーなどが楽しめる多目的広場やテニスコート、ジョギングコース、複合遊具などが整備されています。春には、人生の記念に植樹された桜、約570本が咲き誇り、多くの花見客で賑わいます。

66

向島漁港

むこうしまぎょうこう



古くから漁業・農業を中心とした第一次産業が主体であった向島の産業を支え続けてきました。現在でも、多くの漁船が停泊しているほか、ファミリーや釣りファンに人気の釣りスポットとなっています。

67

三田尻塩田記念産業公園

みたじりえんでんきねんさんぎょうこうえん

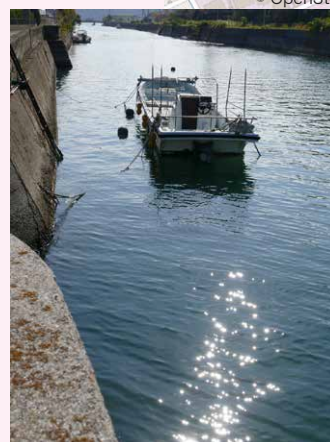


三田尻の塩田は塩の干満を利用して海水を引き込む「入浜式」で、江戸時代以降の約260年間、長州藩や我が国の塩業を支えてきました。現在でも、当時の歴史を感じながら塩づくりの工程を見学・体験できる大変珍しい産業遺産パークです。

68

入川周辺

いりかわしゅうへん



かつて盛んだった「入浜式塩田」へ海水を引き入れ、塩を運ぶために塩田を囲むように造られた水路が「入川」です。現在はその河口周辺に多くの漁船が停泊し、四季折々の美しい景観を楽しみながら、穏やかな時間を過ごせる場所となっています。

69

杵築らんかん橋

ますつきらんかんばし



江戸時代中期に、塩田の間を通る入川に架けられた橋で、かつては9梁ありましたが、現在は1梁のみとなっています。塩や石炭などを運ぶ船が満潮時でも通行できるように中央が山なりに高くなった独特の美しいフォルムが特徴です。

70

塩竈巖島神社

しおがまいつくしまじんじゃ



奥州から勧請した塩竈神社と巖島神社が合祀し現在の姿となり、市指定文化財の「漢式五神五乳鏡（ごしんごにゅうきょう）」が保管・所蔵されています。一の鳥居のすぐ横に防潮扉が設置され、港町ならではの独特な光景を見ることができます。

71

華城公園

はなぎこうえん



街なかにある公園で、インクルーシブ遊具を中心に遊具が立ち並び、多くの子どもたちが遊んでいる様子を見ることができます。公園内には大きな木が植えられており、子どもたちを見守ってくれています。

72

光宗寺

こうしゅうじ



多くの開作により農地や集落が発展してきた華城地区の歩みと人々の暮らしを温かく見守り続けてきた伝統あるお寺です。風格ある重厚な山門をくぐると境内では立派なイチョウや松が参拝者を出迎えます。

73

大崎橋

おおさきばし



植松と玉祖を結ぶ「大崎橋」は、車両専用と歩行者・自転車専用の2つの橋が並んで佐波川に架かっています。橋の上から見渡す佐波川の清らかな流れと遠くにそびえる大平山の雄大な姿は、思わず足を止めたくなる美しい風景です。

74

植松八幡宮

うえまつはちまんぐう



1231年、豊後の宇佐神宮から御分霊を迎え、佐波川の氾濫による蝮の被害から人々を救うため、大内義興公の命により現在の地に移されました。敷地内には色・形・開花時期の異なる6種類の桜の木が植えられており、春の長い期間を彩ります。

75

佐波川 (華城地区)

さばがわ (はなぎちく)



県内を流れる代表的な一級河川で本市の一大景観を成しており、市民生活に潤いと安らぎを与えています。華城地区は、山陽本線が佐波川を渡る唯一のポイントで、西に沈む夕日と列車が重なる絶景スポットです。

76

小茅海岸

こがやかいかん



西浦の最南端に位置する小茅海岸は、周防灘に面しており、工場地帯のシルエットと自然のコントラストが美しく、夕刻には空と海が美しいグラデーションに染まります。イカ釣りの好ポイントとしても有名で、多くの釣り人が訪れます。

77

エヒメアヤメ

えひめあやめ



4月中旬のわずかな期間、華麗な青紫色の花をつけるアヤメ科の多年草です。西浦の小茅地区は貴重な自生南限地域の一つとして、大正14年に国の天然記念物に指定されています。地元の方々によって守り続けられてきた特別な春の風物詩です。

78

旧西浦農協会館

きゅうにしのうらのうきょうかいかん



西浦村役場跡地に隣接し、当時の塩田産業で栄えた西浦地域の中心地でまちの発展を見守り続けてきた、当時の雰囲気や今に伝える貴重な文化財的建造物です。ノスタルジックな外観と当時の活気を残す町のシンボルです。

79

NHK ラジオ中継アンテナ

えぬえいちけーらじおちゅうけいあんてな



西浦の平野部にぽつんとそびえたつ大きな電波塔で、山口県全域や周防灘を超えて大分・福岡まで約71万世帯に電波を届けている「NHK 防府ラジオ放送所」です。青空や夕焼けをバックに真っ直ぐ伸びるシルエットは隠れたフォトスポットです。

80

西浦開作地区のレンガ倉庫

にしのうらいさくちくのれんがそうこ



幕末から近代にかけて導入されたレンガ建築です。赤坂離宮と同じ色合いのレンガによる大正時代の建築物であり、現在も田畑広がる西浦地区の一角に立派に佇み大正時代の防府の景観を今に受け継いでいます。

81

佐波川 (西浦地区)

さばがわ (にしのうらちく)



県内を流れる代表的な一級河川で本市の一大景観を成しており、市民生活に潤いと安らぎを与えています。ゆっくりと周防灘へと注ぎ込む西浦地区の河口には、遮るもののない奥行きのある景色が広がっています。

82

新大橋

しんおおはし



佐波川の広大な流れに架かる新大橋は西浦地域と大道地域をつなぐ2003年に架橋された橋長525.8mの橋で地域の暮らしと物流を支えています。佐波川の雄大な自然景観や西浦、大道地区の田園風景を楽しむことができるスポットです。

83

矢筈ヶ岳

やはずがだけ



標高約461mで、矢筈という名の通り2つの頂上を持つ双耳峰（そうじほう）です。8合目には、南北朝時代の城跡、国指定史跡「敷山城跡」があります。西峰の巨石は防府市街地や瀬戸内海を一望することができる絶景スポットです。

84

佐波川 (右田地区)

さばがわ (みぎたちく)



県内を流れる代表的な一級河川で本市の一大景観を成し、市民生活に潤いと安らぎを与えています。春には堤防沿いに桜が咲き誇るなど、四季折々の様子を楽しみながら川沿いを歩くことができ、周辺にはキャンプができるスポットもあります。

85

月の桂の庭

つきのかつらのにわ



右田ヶ岳の麓に位置する武家屋敷で、江戸時代中期に毛利家家臣・桂忠晴によって作庭された白砂に石を組み合わせた「枯山水（かれさんすい）」の庭園です。通常は非公開で、一般に公開されることは少ないため非常に希少価値の高い名園です。



86

右田ヶ岳

みぎたがだけ



迫力のある岩肌が露出した姿は南直下を通過する山陽新幹線の車窓からもよく目立つ標高426mの山です。山口県百名山のひとつで、低山ながら本格的な岩場や鎖場が楽しめる「岩峰」として、初心者から愛好家まで人気の高い山です。



87

天徳寺

てんとくじ



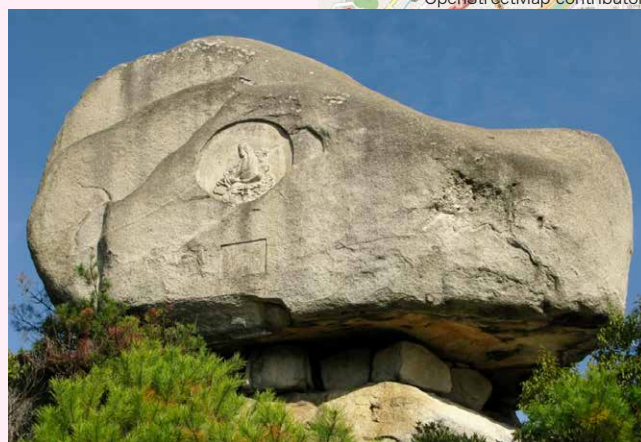
右田ヶ岳の麓にある天徳寺は右田毛利氏の菩提寺で、境内には樹齢約800年といわれる市指定天然記念物のイチョウが植えられています。立派な山門と美しく色づく木々のコントラストは、この季節だけの特別なフォトスポットです。



88

石船山

せきせんざん



右田ヶ岳の南麓にある標高約194mの山です。天徳寺登山口からの山道沿いには、自然の岩肌に彫られた33体の観音像磨崖仏（まがいぶつ）が今も残っており、そのスケール感を見る者を圧倒し、山全体が神聖な空気に包まれています。



89

新橋 (右田地区)

しんばし (みぎたちく)



防府市と山口市を結ぶ交通の要衝であり、佐波川に架かる「新橋」は、1959年にアーチ橋へと姿を変えました。1979年には交通量増加のため、下流側に同型式の橋を新設し、新旧2基のアーチ橋が美しく並ぶ、現在の景観となりました。

90

剣川

つるぎがわ



防府市中北部の国道262号線と並行・交差しながら南流し、佐波川本流と合流する佐波川水系の一級河川です。平成21年には流域で大規模な土石流が発生した剣川ですが、春には、堤防で桜が咲き、夏の夜には、蛍が飛び交う清流です。

91

玉祖神社 (玉祖地区)

たまのおやじんじゃ (たまのやちく)



はっきりとした創建年は不明ですが、738年の周防国正税帳(しょうぜいちょう)にその名が記載される大変古い由緒を持つ周防国一宮です。国指定天然記念物「黒柏鷄(くろかしわけい)」発祥の地で、境内では今も飼育が行われています。

92

二六台

にろくだい



高台には、近くで出土した箱式石棺が移設・保管された二六台古墳があります。また、高台からは一級河川・佐波川を見下ろし、遠く瀬戸内海まで見渡すことができる絶景スポットです。ゴールデンウィーク頃にはこいのぼりが防府の空を泳ぎます。

93

山陽自動車道 佐波川 SA 下り線庭園

さんようじどうしゃどうさばがわ
さーびすえりあくだりせんていえん



サービスエリアに隣接する石庭公園には、あずま屋やベンチがあり、テイクアウトした食事を楽しみながら、ゆったりと過ごすことができます。公園内には、かつて江泊塩田の入川に架けられていた「杵築らんかん橋」が移設・展示されています。

94

ポンポン山

ぽんぽんやま



佐波川の河口付近にある小島山は、標高約24.6mの小さな岩山で、山頂で飛び跳ねると「ぽんぽん」と音が響くことから、「ポンポン山」と呼ばれています。わずか5分で山頂まで登ることができるお手軽な登山スポットです。

95

自由ヶ丘

じゆうがおか



山口県立総合医療センター北側の西目山麓に位置する豊かな自然に囲まれた閑静な高台の住宅街です。道路沿いには多くのツツジが植えられ、美しい景観が広がっています。広々とした公園も整備され、多くの子ども連れで賑わいます。

96

椿峠からの眺望

つばきとうげからのちょうぼう



椿峠は、周南市との市境に位置する国道2号線の峠で、令和8年3月5日に国道2号「富海拡幅」区間の4車線化が完了し、渋滞のないストレスフリーなドライブが可能になりました。富海の美しい街並みと青い海を一望できるポイントです。

97

国津姫神社

くにつひめじんじゃ



航海安全・交通安全・五穀豊穰の守護神として、また村の産土神（うぶすながみ）として崇敬されています。第一の鳥居は、港の堤防に置かれており、美しい海を背に真っ直ぐ続く参道は、独特な景観を創り出しています。

98

富海漁港

とのみぎょうこう



富海海水浴場の東に隣接し、今も現役の漁船や趣味のボートが多く停泊しており、港町ならではの情緒が漂っています。釣りのスポットとして多くの人が訪れるほか、間近を走る山陽本線の迫力ある姿を撮影できるフォトスポットとしても人気です。

99

旧山陽道

ぎゅうさんようどう



旧山陽道は、古代には都と大宰府を結ぶ重要な街道でしたが、近世になると、江戸から離れているため、五街道に準ずる脇街道となりました。現在も沿線には宿場町の面影を伝える多くの歴史的建造物が残り、大切に守り伝えられています。

100

船蔵通り

ふなぐらどおり



富海は、旧山陽道の陸路と海路が交わる交通の要衝として栄えた宿場町です。北側と南側で高低差がある地形は、南側がかつて海岸であったことを今に伝えており、当時は、船から降りて石段を上がり、直接家に入ることができたと言われています。

101

富海駅

とのみえき



1898年に利用が開始された旧駅舎は、120年以上の長きにわたり親しまれてきましたが、老朽化により、2023年に青い屋根と白い壁のイメージを残しつつ再建されました。美しい瀬戸内海に面したのどかな駅です。

102

富海海水浴場

とのみかいすいよくじょう



およそ500mの砂浜が続く、遠浅で泳ぎやすい海水浴場です。国道2号線から近く、富海駅から徒歩5分とアクセスが良いため、毎年7月上旬に海開きが行われると多くの海水浴客が訪れる人気スポットです。

103

手懸岩からの眺望

てかけいわからのちょうぼう



旧山陽道沿いの起伏の激しい山の中腹あたりにある岩で、「旅人たちはこのあたりに来ると眼下に見える瀬戸内海の絶景にしばし足をとどめ、この前にある岩に手を懸けて休んだ」ということから、この岩は手懸岩と言われている。

104

琴音の滝

ことねのたき



琴音の滝は、伊藤博文らが富海で狩猟をしていた際に、滝の音を聞いて名付けたと言われている、自然と歴史が調和した隠れた名所です。1の滝から4の滝まで4つの滝があり、なかでも2の滝は最大落差約10mを誇ります。

105

小野の田園風景

おののでんえんふうけい



棚田と里山が広がる日本の伝統的な山村風景が今も残っています。中山間地域の傾斜を活かした棚田は、水鏡となる春、青々とした稲が育つ夏、黄金色に輝く秋など、季節ごとに表情を変え、四季折々の美しさを見せてくれます。



106

久兼 ふるさと牧場

ひさかねふるさとぼくじょう



「山口県棚田20選」にも選ばれた美しき久兼の里山の最上部に位置するふるさと牧場では、牛の放牧による里山保全と棚田米の生産を行っています。牛が草を食べ、山を育て、その恵みがコメを育む、理想的な資源循環型農業が実施されています。



107

佐波川 (小野地区)

さばがわ (おのちく)



県内を流れる代表的な一級河川で本市の一大景観を成し、市民生活に潤いと安らぎを与えます。毎年ゴールデンウィークには「こいながし」が行われ、水中を泳ぐこいのぼりと豊かな自然が調和した美しい風景を求めて多くの見物客で賑わいます。



108

宇佐八幡宮

うさはちまんぐう



本殿は17世紀末に再建されて以来、大規模な構造の変更がなく、山口県内でも数少ない17世紀の神社建築の遺構として市の有形文化財に指定されています。境内には「しゃくなげ園」があり、淡く美しい姿が春の到来を告げます。



109

真尾小学 開学の地 石碑

まなおしょうがくかいがくのち せきひ



自然豊かな真尾地区の高台に佇む真尾小学校の開学の地。そこにある石碑と桜は、四季の移ろいの中で多くの子どもたちの成長や活動を見つめ続けてきました。数多くの卒業生を送り出した、歴史の重みを感じる景観です。

110

玉祖神社 (大道地区)

たまのおやじんじゃ (だいどうちく)

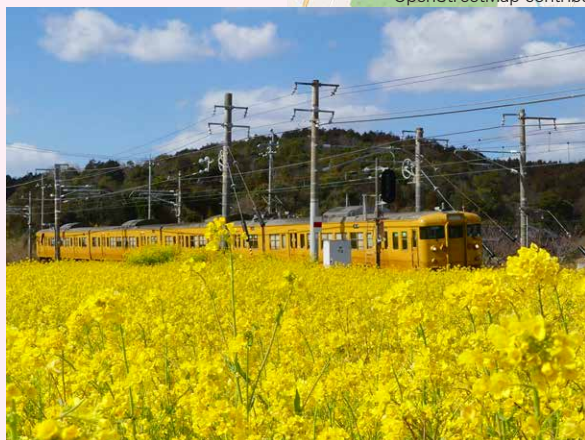


周防国一宮玉祖神社から勧請され、室町時代の創建と伝えられる由緒ある神社です。市内の神社ではNo.1の放生池（ほうじょうち）を誇り、梵鐘（ぼんしょう）は市有形文化財に指定されています。春には桜が咲き誇る隠れた名所です。

111

山陽本線

さんようほんせん



防府市を東西へ通過し、近隣都市への通勤・通学等快適な暮らしの真ん中には山陽本線があります。3月下旬から4月上旬には線路そばに菜の花が咲き、鉄道写真ファンにとっても魅力的なロケーションが広がります。

112

長沢池

ながさわいけ



江戸時代初期に多くの人々の手によって築かれ、田畑に水を供給し、村々を干ばつから守ってきました。周囲約6kmの大湖で、春には桜が咲くなど四季折々の自然に彩られ、冬には多くの渡り鳥の楽園になっています。

113

大海湾

おおみわん



一級河川・佐波川の恵みが流れ込む大海湾は、豊かな干潟や穏やかな瀬戸内海の風景が広がり、沈む夕日の景色は絶景です。また、絶好の釣りスポットとしても知られており、多くの釣りファンを沸かせています。

114

小俣八幡宮

おまたはちまんぐう



1199年に創建され、800年以上続く伝統神事「笑い講」の発祥地として全国的にも知られています。隣村との争いをきっかけに先人たちが神符を持ち帰り、神社を建て、産土神（うぶすながみ）として祀ったのがはじまりと言われています。

115

笑い講

わらいこう



大道小俣地区に伝わる神事で、防府市の無形民俗文化財に指定されています。全国的にも珍しい笑いの神事で、紋付き袴の講員が櫓を手に3回笑いあい、今年の収穫の感謝と来年の豊作を祈り、1年の憂さを豪快に笑い飛ばす年忘れの奇祭です。